

令和 8 年度 第 2 回女川町地域公共交通会議 議事録

1. 日 時：令和 8 年 8 月 4 日（火） 14：00～15：00
2. 場 所：女川町生涯学習センター 研修室
3. 議 事：（1）女川町地域公共交通計画に係る KPI の中間評価に伴う町民アンケートについて
（2）町民バスのデマンド運行方針について
4. そ の 他

■議事概要

（1）女川町地域公共交通計画に係る KPI の中間評価に伴う町民アンケートについて

○事務局から資料 1-1・1-2 に沿って説明した後、質疑をおこなった。

A 委員 アンケートの内容として、もう少し聞いた方が良いと感じる部分がある。今後の公共交通を考えるのであれば、どの地区にお住まいか尋ねる設問。目的別の移動手段について、その手段を選んだのはなぜか、利便性が不便と回答した方には、なぜ不便を感じるのか、などの視点で質問を追加していくと今後の計画策定に向けて反映できると思う。

一方で、前回のアンケートからの連続性も考慮してご検討いただければと思う。

事務局 説明が漏れたが、調査票の右上に地区コードを記載しており、行政区ごとにコードを振り分けして把握していく。

より詳細に設問設定できると、今後役に立つ情報が得られるが、今回はあくまで中間評価のため、より多くの回答をいただきたいため、調査票の項目をシンプルにしている。公共交通への意見は、最後の自由記述欄にご記入いただければと考えている。

A 委員 承知した。シンプルにすることを重視するのは理解するが、せっかくの機会なので、アンケート結果の今後の活用を含めて内容をご検討いただきたい。

デマンド交通の設問について、項目 11 の「デマンド交通で重視する項目」は、我々 JR としては町の外に出る交通を運行しているので、接続をどの程度重視しているかお聞きしたい。また、使わない人の意見を拾える構成にして、今のところ使わないと考えている人に今後どうしたら使っていただけるかを考える視点もあるので、ご検討いただきたい。

事務局 デマンド交通と広域交通の接続について、事務局にて追加を検討する。
使わない人の意向把握は、今回はスペースの関係で難しいが、今後どのように意向を把握していくか検討していきたい。

A 委員 なるべく意見を拾って、利便性を上げるために、ご検討いただけたらと思う。

B 委員 項目 3 のお住まいの地域の公共交通は、それぞれの利用状況に応じて、意識する交通手段が町民バスなのか、広域交通なのか、思い浮かべる対象

がそれぞれ違うと思うが、どのようにお考えか。

事務局

公共交通全体の利便性を聞く設問としている。もう少し分かりやすくなるよう、事務局で検討する。

(2) 町民バスのデマンド運行方針について

○事務局から資料 2、参考資料①、②に沿って説明した後、質疑をおこなった。

B 委員

定時定路線ではなく、自由な運行時刻設定となるが、こうした運行形態では乗合率が悪く効率が上がらず、収支率が上がっていかない、利用者が予約しづらいなどの問題が出てくる。予約したい時間帯に予約できない場合、例えば 10 分前なら可能など、予約可能な時間帯が案内されるのか。

混雑時間帯は時間や方面を固定するなどの工夫も必要になってくる可能性がある。ある程度、時間帯や方面を固定した受付というシステム拡張も対応できるということか。

事務局

予約は出発時間または目的地の到着時間を指定できるシステムとすることを想定しているが、予約できない場合には次に予約できる時間帯を選択できるようにすることを考えている。15 分刻みの時間設定も可能であるため、担当課としては 15 分刻み程度の予約で進めていきたいと考えている。

混み合う場合の時間固定について、定時定路線への対応も可能なシステムとなっている。半島部には高校生の利用者が 1 人ずついるが、毎日必ず町民バスを利用しているかという判断が難しい。住民説明会において、医療センターの診察時間、石巻線の時刻など、固定化した方がいいという意見があれば、担当課として検討していきたい。

現時点では、中心部は 15 分刻みとし、離半島部をどの程度の予約幅とするかは担当課でも検討中だが、30 分とか 1 時間とかある程度の幅を持たせて予約できる形を考えている。

B 委員

地域内の交通に関しては、JR やミヤコーバスなど広域交通との接続が重要になるため、そうした利用時にも使い勝手のよいシステム設計をご検討いただきたい。

始発便と最終便の予約締切の記載があったが、中間便は何分前になるのか。また、前日までの予約締切は始発便だけの設定で大丈夫なのか。

高校生の利用があるということだが、毎回予約するのではなく、1 週間分まとめて予約はできるのか。

事務局

中間便は、車両がどこにいるかによるところがあるが、概ね 15 分前の予約締切を考えている。中心部であれば 15 分で到達できる。一方、半島部は片道 30 分程度かかるため、半島部の場合は、乗車バス停から乗車可能な時刻を案内することを考えている。

始発便の次の便以降はアプリや自動音声から予約いただければ当日でも可能である。1 週間単位、1 ヶ月単位など、曜日等の反復での予約が可能になるよう、システム構築の段階で設定をチューニングしてまいりたい。

- C 委員 予約締切のタイミングについて、5 台の運行をどうマッチングさせて利用者の目的地に届けるのか。同時にいろいろな地区から予約が入った場合に、どのようにルートを決断させることになるのか。
- 事務局 予約確定のタイミングとして、利用者が到着時間か出発時間で設定し、利用したいバス停を設定すると予約できる時間帯が表示され、配車が確定する。システムを通じて車載端末に情報が届く流れになっている。
- 乗車地がバラバラの場合については、システム上で、「寄り道許容度」が設定できる。どれだけ遠回りを許容するのかというパラメータとなる。また、予約確定後の乗車時間に幅を持たせる予定である。本日はデマンド運行方針の骨格の部分をご説明しているが、詳細については住民説明会でお話を伺いながら、許容度等のチューニングを検討していきたい。モビリティ研究会では、10 分程度は幅があってもいいという意見があった。今後、詳細を詰めていきたいと考えている。
- C 委員 寄り道許容度は利用者自身が設定するのか。
- 事務局 あくまでシステム上のパラメータとして設定する固定の許容度になる。導入後の実績を確認しながら設定変更を柔軟に対応したい。利用者にとって、目的地への到着時間が遅れることはあってはならないので、そこは厳守する。
- C 委員 詳細については、モビリティ研究会や町民の意見を踏まえて詳細設計していくということでしょうか。
- 事務局 システム構築に当たりご意見をいただきながら、パラメータ設定等の詳細を決断していきたいと考えている。
- B 委員 参考資料①では時間、出発地・目的地を選択すれば予約できるという表示になっているが、実際は目的地の到着時刻優先なのか、出発地の出発時刻優先なのかを選択するシステムと思う。手順が分かるような資料を作っていただくと、説明会でも分かりやすいのではないかと。
- 事務局 参考資料①はあくまで予約の一例であるが、予約の流れの詳細資料は必要と考えている。主に高齢者が利用するものなので、説明会では画面も大きくし、場合分けをした資料を作成したい。
- A 委員 女川駅まで 30 分かかる地区の住民が、例えば女川駅に 8 時に到着したい場合、利用者側は 7 時 30 分発を予約することになるのか、7 時 20 分出発になるのか。出発ベースでどのような選択肢が表示されるのか。
- 事務局 直行であれば 7 時 30 分に出れば間に合うバス停の場合、寄り道許容度のパラメータ次第で出発時刻が決まる。予約時間の許容度、時間の前倒しのパラメータ設定による。
- バスが実際に来る時間は、7:15 頃に来る、など乗車時間の後ろ倒し、前倒しについてもパラメータ設定し、幅を持たせる。他に予約がなければ 7:45 に駅に着くということもあり得る。
- A 委員 仮に寄り道許容度を 15 分とした場合は、その範囲内で別の利用者を載せ、8 時までには駅に着くということでしょうか。

- 事務局 あくまで到着時間は死守する。前倒しで到着する可能性はあるが、委員のご発言の通りである。
- D 委員 オペレーターを介する予約システムとなるが、あくまで予約に限ったものであって、体調不良による予約取り消し、指定した時間にバスが来ないなどのトラブルに対応するわけではないのか。
- 事務局 電話受付のオペレーターについては、アプリ操作ができない方向けに代行予約するオペレーターとなる。キャンセルは対応できるが、バスが来なかった等は、運行主体が女川町であるので、企画課での受付になる。
- 会長 ご意見等があれば、終了後でも構わないので事務局にお伝えいただきたい。デマンド交通については、9月頃を予定している次回会議でご審議いただきたい。

(4) その他

- JR 東日本木村委員代理より、7月1日からの組織再編について発言があり、石巻線については仙台事業本部が担当となる。
- 次回は9月下旬～10月上旬頃に交通会議を開催したいと考えている。日程の詳細が決まり次第、お知らせする。

以上